



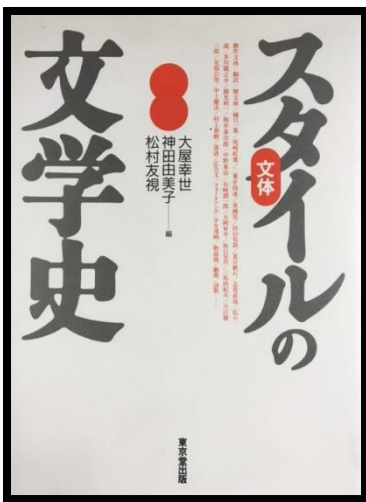
2016年11月(平成28年)
第35号
 発行
 チーム・バオバブ
 E-mail
 info@cafe-fermata.com

参考にしています

『スタイルの文学史』

(東京堂出版)

今回の展示企画で、自分にとって当たり前だったことが、実はとてつもない大転変であったと認識したことがあります。現在の書籍が当たり前である私たちは、作家の「多種多様な文体」を読むことになりません。ところが、この多様な文体は明治



以降、徐々に変化し使われてきた経緯があるのです。

時代によって、そもそもの日常会話の言葉に特徴がありました。一方で、文章を書く際には分掌なりの「文語体」がありました。この、文章での言葉の表現スタイル(文章をどんな文体で記述するか)には、その時代が訪れない限り現在の当たり前の表現は存在しなかったし、また何より、鵬外にせよ、漱石にせよ、当時リアルタイムの読者にとっては、画期的な文章だったのだということをして、この本は再認識させる一冊となっています。

この本の構成は、各時代の代表作家の文章が紹介され、その解説がなされ、次にはまた、次の時代の代表作家が取り上げられるという形になっています。仮名垣魯文の戯作文体から始まり村上春樹まで解説されます。参考になりますね。

ジエケ買いしちやいました!?

(18)

『グラントスタンド』 Grant Green



GRANTSTAND / Grant Green
 Blue Note BLP 4086 (1961年)

ジャズはじっくりとレコードを聴くのもスタイルだが、自分で演奏するのもスタイルである。自分なりにそう思っている。では演奏する楽器はなんだ、と言われるとドラムか、サクソスカ……。やはりギターなのだろうか……。そんな移ろう気持ちがこの一枚を選ばせたのである。

ギター弾きにとって、このアングルはとて"おいしい"。丁度観客の視線でもある。この時は Grant・グリーンが何者か、このアルバムは何作目か、などと気にもせず購入。「ギター」という主張が分かり易かった。

かつば橋道具街に 行ってきました

料理道具が揃った町、かつば橋に出かけてきました。煮物をトサッと盛り付けるのに格好がつく器を探しに行ったのですが、道具に対する興味は抑えきれず、結局端から端まで見て回ってしまいました。

今回特に気になったのは、和菓子の木型です。第一印象としてとにかく美しい。この美しい道具を是非、自分も使いこなしてみたいと思いました。

落雁という菓子はよく知っています。しかしあまり身近なものではありませんでした。京都あたりのお土産であろう、程度の意識です。でもこの瞬間から意識は変わりました。「落雁を作りたい！」です。

早速Homeを使ってその場でネット検査です。落雁はいくつかの粉を使って作るそうです。作業自体は単純そうです。益々興味をそそります。ただ問題は木型の値段です。おそらく手作りなのでしょう、どれも一万円以上の値がついています。そんな折、馬嶋屋菓子道具店さんを覗くとプラスチック製ではありますが、干菓子の型が置いてありました。1500円もありません。手頃です。実はネット情報によれば他に瀬

物製などもあるらしく、ただ木製に比べどれも粉の引っ付きがあるようで、水分を吸収できる木製が一番とのことでした。とは言え先ずはお試しです。プラスチック製を購入しました。

実際に試しましたが、なかなか上々です。引っ付きは確かにありました、それも事前に粉を裏ごしすれば全く支障はありませんでした。一回目は、より手間のかからない和三盆のみの干菓子を作製。二回目は微塵きび粉をベースに寒梅粉の代用品で「もち粉」を合わせた材料で落雁を作成しました。どちらも大成功です。特に落雁はとても上品な味に仕上がっています。気を良くしたものですから、これで次はいよいよ本格的に木型を使いたいと思っています。またまた道具街かつば橋へ出かけ



なければなりません。さて、益々面白くなってきました。自分で作った和菓子で、一服の茶をこの伊豆でいただくうと思っています。

ご案内

チーム・バオバブのブログ
はこちらから



【新企画】 日本文学！

明治に始まった近代日本文学。その誕生には文学者の数だけ理想があったといえる。これら文士の代表作の初版本を復刻した作品を展示。どうか、手に取ってご覧ください。

11月6日

(12月、1月、2月はお休みです)

【朝活情報】

『カード"リーディング"』

カードを通して宇宙とつながる

11月6日 10:00~11:30